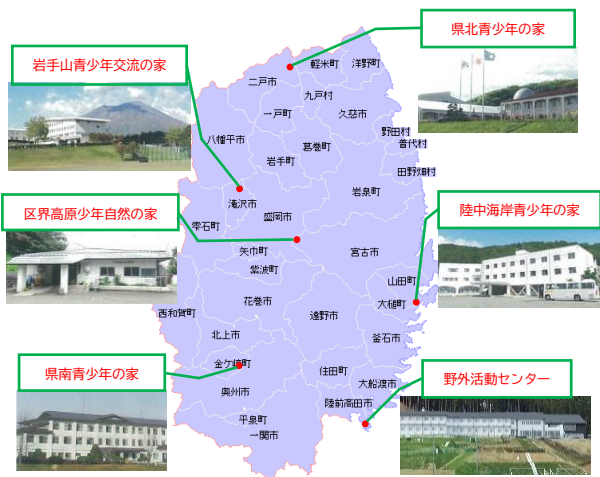




体験活動の充実のために ～青少年教育施設を通して～

令和5年10月21日に**国立岩手山青少年交流の家**開所50周年記念式典が開催されました。**岩手山青少年交流の家**は青少年の育成を図るため、自然体験活動や創作活動の他、社会体験を行う場や機会の設定、防災教育の充実をテーマに「防災キャンプ」を展開するなど様々な取組を行っています。

この他にも県内には**県立青少年の家（県南青少年の家、県北青少年の家、陸中海岸青少年の家）、県立野外活動センター、盛岡市立区界高原少年自然の家**があります。



野外活動センターは、かつて**高田松原野外活動センター**として青少年健全育成とスポーツ振興、野外活動の推進にあたってきましたが、東日本大震災津波によって全壊の被害を受け、その活動の停止を余儀なくされました。その後、概ね10年の歳月を経て、広田半島の元**広田水産高等学校**の跡地に場所を移し、令和4年7月から**野外活動センター**として活動を本格再開しています。

県立青少年の家の3施設は開所から40年以上が経ち、最も古い施設で46年目を迎えています。3施設とも老朽化が進み、職員自ら出来る範囲で

の補修は行っていると聞きましたが、大規模な修繕となると予算も限られており厳しい状況が続いています。

また、今年の夏は猛暑日が続き、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と語っていました。豊かな自然に囲まれた青少年の家ではありますが、猛暑の中、施設内での研修や活動、宿泊など利用者にも多くの負担があったことと思います。

そのような状況の中でも職員は施設の維持管理や利用促進を図り、ニーズに応えるため工夫を凝らし活動を推進しています。見えない努力、多くの取組を行い、県立青少年の家3施設とも利用団体数が落ち込むことはなく、利用者数もコロナ禍前に戻りつつあることを聞くと、改めて青少年施設の必要性を感じます。

当センターではコロナ禍でも学びの場、研修の機会を止めることがないようオンライン配信を活用しながら進めてきましたが、体験活動は簡単にオンラインで行うというわけにはいきません。また、広い本県では青少年の家で体験活動を行う場合、移動に片道2時間も費やしては活動する時間や内容が制限されます。現在設置されている箇所が必要となります。

青少年の家が企画している研修の中には、3泊や4泊を伴う宿泊研修があります。異なる学校の子どもたちが集まり宿泊を含めた体験活動を通して、仲間をつくり、絆を深め、豊かな心を育み遅く成長します。宿泊研修や人気のある事業は受付と同時に電話が鳴りやまず数分で定員に達すると聞きます。毎年楽しみにしているリピーターも多く、小学生の時に体験した貴重な経験が高校生・大学生となったときボランティアスタッフとして活躍している若者も多くいます。

情報化社会の今だからこそ、青少年の育成の場や機会、豊かな心を育む体験活動の充実が重要であり必要とされているのではないのでしょうか。

(所長：外館 邦博)

岩手県立生涯学習推進センター 事業報告

放課後子ども総合プラン指導者合同研修会② 9/1(金)実施

発達に特性のある子どもについて理解を深めること、日常生活の中で困り感を抱える子どもへの支援方法を学ぶことを目的とし、研修会を開催。今回もより多くの方に学んでいただくため、参集型とオンライン型のハイブリッド方式で実施し、

併せて199名の方に参加いただきました。



講師：NPO法人 自閉症ピアリングセンターここねっと常務理事 / 仙台市自閉症児相談センター長 黒澤 哲氏

事業プログラム企画運営研修講座 9/6(水)実施

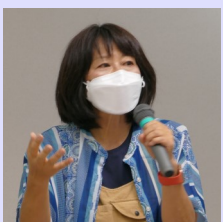
事業を企画、構成するための基本的な考えを学ぶこと、幅広い世代の住民の参画による講座づくりの重要性について理解を深めることを目的に、研修講座を開催。公民館・地区センター等の職員や県、市町村の生涯学習・社会教育関係職員等31名の方に参加いただきました。



講師：桜の聖母短期大学キャリア教養学科教授 桜の聖母生涯学習センター長 三瓶 千香子氏

地域安全防災研修会 9/15(金)実施

地域のつながりづくりや命を守る視点から、地域防災について学ぶこと、日常生活に取り込める防災・減災に関する知識や方法を学び、イベント・講座等の企画に活かすことを目的に、研修講座を開催。32名の参加者の所属は行政・公民館・学校・幼稚園など多様であり、各方面で災害に対する危機意識や防災等への関心が高いことがわかりました。



講師：アウトドア防災ガイド 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 博士課程 あんどう りす氏

センター・公民館・主管課職員等セミナー 9/21(木)実施

デジタル化社会における社会教育施設の在り方について考える機会とすることを目的に、セミナーを開催。8名の方に参加いただきました。



講師：生涯学習推進センター 社会教育主事 高橋 啓

子育て・家庭教育相談担当者研修会 I 9/29(金)実施



発達障がいと不登校について理解を深め、家庭を含めた当事者への具体的な支援について学び、相談員や支援者として対応力を高めることを目的に研修会 I をハイブリッド型で開催。併せて285名の方に参加いただきました。

講師：常磐大学 人間科学部 心理学科 教授 秋山 邦久氏

II 11/28(火)実施

「叱る」という行為のメカニズムについて知り、相談員や支援者としての対応力を高めることを目的に研修会 II をオンライン型のみで開催。238名の方に参加いただきました。



講師：一般社団法人子ども・青少年育成支援協会 代表理事 / Neurodiversity at Work 株式会社 代表取締役 臨床心理士・公認心理師 村中 直人氏

地域学校協働活動推進員等研修会 10/31(火)実施

コミュニティ・スクールが浸透してきた今日における、地域学校協働活動推進員の役割について理解を深めること、演習等を通して地域学校協働活動を継続・発展させる力を身につけるとともに、ネットワークの構築を図ることを目的に研修会を開催。24名の方に参加いただきました。



講師：一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人氏

令和5年度 岩手県生涯学習推進研究発表会 ～人づくり・つながりづくり・地域づくりフォーラム 2023～

期
日

令和6年2/1(木)・2/2(金)

会
場

- (1) 参集⇒岩手県立生涯学習推進センター (100人)
(2) オンライン⇒YouTubeライブ配信(無制限)
※2月29日(木)まで受講者限定オンデマンド配信あり。



申込はこちらから

2月1日(木)

受付13:00～ 開会13:30 終了16:00

受付	開会 行事	13:45～16:00 (1)研究発表・協議
----	----------	---------------------------

2月2日(金)

受付9:30～ 閉会15:00

受付	10:00～12:00 (2)パネルディスカッション	休憩	13:00～15:00 (3)講演	閉会
----	-------------------------------	----	----------------------	----

(1) 研究発表・協議 13:45～16:00

① 「SDGs (持続可能な開発目標) の実現に向けた

社会教育の役割と課題」(1/2年次)



岩手県立生涯学習推進センター

社会教育主事 齋藤 剛

② 「地域づくりにおける公民館等の役割に関する研究

～震災後の地域復興・地域創生に焦点を置いて～(2/2年次)



岩手県立生涯学習推進センター

社会教育主事 高橋 祐輝



[コーディネーター・助言]

岩手大学 名誉教授 新妻 二男 氏

【2月2日(金)】

“地域防災力を高めるための公民館等の役割やあり方を考える”

(2) パネルディスカッション 10:00～12:00



「住民の地域防災力を高めるために、
公民館等はどう関わっていけばよいか」

[事例発表・パネリスト]

- ①久慈市 総合政策部 中央市民センター 所長 亀田 義治 氏
- ②東京都 国分寺市光公民館活動グループ「みんなで防災2015」会員
櫻井 幹三 氏
- 東京都 国分寺市教育委員会 光公民館 事業係(社会教育士)
加藤 友志 氏

※パネルディスカッションでは、当センター高橋祐輝社会教育主事がパネリストとして参加します。

[コーディネーター・助言]

東京都立大学 人文社会学部 教授 野元 弘幸 氏

【2月1日(木)】

今年度の当センターにおける研究成果を発表します。

(3) 講演 13:00～15:00

「地域防災における社会教育の役割とは(仮)」

・1961年鹿児島県生まれ

<専門分野>社会教育・生涯学習、多文化・多民族教育、防災教育

社会教育ゼミでは、国分寺市の公民館や八王子市の生涯学習センターと共同で、地域と大学の連携を模索する講座づくりを行っている。また、2011年の東日本大震災以降、防災教育にも注目して、地域での防災教育・学習のあり方を検討している。実際に、東北の被災地への「被災地訪問学習」も実施。

<著書>

・「社会教育における防災教育の展開—東日本大震災記録誌の分析を中心に—」東京都立大学人文科学研究科『人文学報』(第501号、2015年)

・編著『社会教育における防災教育の展開』大学教育出版、2018年。



オンラインは、
Webサイト「まなびネットいわて」
内特設ページから、
YouTubeライブで配信します。

盛岡市教育委員会事務局生涯学習課から、特色ある事業について寄稿いただきました。

初級読書ボランティア研修会

盛岡市では、子どもの読書活動推進のため、読書ボランティアの新規養成及び既存のボランティアの技術向上を目的とした初級読書ボランティア研修会を実施しています。今年の研修会は、盛岡大学短期大学部幼児教育科助教の丸山ちはや先生を講師に迎え、「絵本の楽しみを子どもに」という演題で講義をしていただきました。導入で、丸山先生は受講生に、「子どもには、なぜお話や本が必要か?」と問いかけました。「食べ物は身体の栄養であり、長い年月をかけてゆっくり体は育っていきます。それと同じように、ことばかけは心の栄養であり、そばにいる人がその状況に応じたことばで話しかけることで、子どもは母語を獲得していくのです」と説明され、参加者の皆さんが大きくならずにいました。「子どもは、絵本をとおして聞いたことばを現実世界と結びつけながら自分の世界を広げていきます。その中で、経験値があがり、想像力も高まっていくのです」と具体的な例を織り交ぜながら分かりやすく解説してくださいました。後半は、「年齢と成長に合わせた絵本とは…」、「良書とは…」というテーマで、どんな絵本を選んだらよいか教えてくださいました。先生が、手遊び、わらべうた、読み聞かせ、ストーリーテリングなどを実演してくださいましたので、受講生の皆さんは大いに参考になったようです。受講者からは、「読み聞かせの大切さを確認できました」「先生のお話やわらべうたがよかったです」「先生がお話をするときに、表情豊かだったので、参考にしたいです」という感想が寄せられました。



家庭教育研修会 「はぐ講座」第1回

はぐ講座は、子育て中の方や子育てに関わる方を対象に、家庭教育に関する各種情報を提供するとともに、子育てに関する人間関係を広げ、地域を越えた人と人とのつながりを形成するための支援を行うために、年に2回開催しています。小さいお子様がいる参加者も多いことから、毎回、託児を実施して、参加しやすい環境を整えています。

本年のはぐ講座①では、子どもに対する叱り方や感情のコントロールの仕方について、日本アンガーマネジメント協会の関村和絵氏に講義をしていただきました。関村氏は、「アンガーマネジメントとは、怒らないということではなく、後悔しないように怒ることです」と話されました。15名の参加者を2、3名ずつグルーピングして、時おり、受講生同士が話し合う場面を取り入れながら、和気あいあいとした雰囲気の中で講座は進んでいきました。「怒りも感じるものですが、衝撃をコントロールすること、思考をコントロールすること、そして、行動をコントロールすることで、上手な叱り方をしていきましょう」と、受講生の考えを取り上げたり、ご自身のエピソードを挙げたりしながら、分かりやすく説明していきました。受講生からは、「今後の子どもとの接し方、話し方について気を付けようと思うところがあって、さっそく子どもと話してみるのが楽しみになりました」などの感想が寄せられました。

